

平成29(2017)年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

学院教育理念「独立自彊(自ら努め励む)・社会有為(世のため、人のために尽くす)」を学習・生活・行事・HR・クラブ活動など、すべての教育活動の基軸に据えて、「自己肯定感」と「関係性の力」をキーワードに人間形成教育を実践する。
そして、自主的自立的精神と確かな個性をもち、同時にまた、他者や社会のことを考え、豊かな社会性を持つ人物を育成する学校を目指す。

2. 中期的目標

<p>1 教育理念に基づく教育推進</p> <p>(1)教育理念に沿った学年・クラス・クラブの「行動」目標を設定し、その達成に努める。 年度当初に中高全学年・クラス・クラブで教育理念を踏まえた「行動」目標を立て、実践に努める。</p> <p>(2)「志の教育」(自校教育を含む)・「心の教育」・「キャリア教育」のさらなる充実を図る。 私学・追手門学院にとって、建学の精神を踏まえ、教育理念に基づく「志の教育」「心の教育」の実践は使命である。</p> <p>(3)「総合学園」として「一貫連携教育」を推進する。 特に「高大連携」では、その意義を確認し、育成すべき人物像、目指すべき教育を明確にし、学院として「教育」の流れ、「人」の流れを強化する。</p> <p>2 「学習力」の強化</p> <p>(1)生徒の学力向上、進路実現のため、教員の「教育力」向上に取り組む。 教員の教育力(教科指導力・生活指導力)の向上による学校満足度の上昇で、教員の意欲も高まるという好循環を作り出す。</p> <p>(2)生徒の「学力」向上に取り組む。 中学校ではSSクラスにおいて難関国公立大学・国公立大学進学シフトを強化する。 高校では、特選SSクラスの充実を図り、これを機軸に難関国公立大学・国公立大学進学シフトを強化する。</p> <p>3 特色ある教育の推進と充実</p> <p>(1)「新たな学び」への対応として、「総合学習」のさらなる充実を図る。 中学年代においては、「考える力」「伝える力」を涵養するため、「総合学習」の新しいプログラムを確立する。 高校年代においては、これから先の時代に必要とされる「答えが一つではない問い」について主体的に考える力を養成する。</p> <p>(2)「国際教育」の系統化を図り、より充実したプログラムの作成に努める。 中学校では、国際教育の学習プログラムを整備し、実践に努める。また、系統立てたプログラムによって生徒の英語コミュニケーション力の向上を図る。 高校では、国際教育を通して涵養すべきグローバル社会に対応する力を養成するための学習プログラムを整備し、実践に努める。</p>

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析【2017(平成29)年11月実施】	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒への親身な指導についての評価項目(「教員相談対応」や「問題を見逃さず対応」など)について、昨年引き続き高い評価を得ている。 中学生の評価は、昨年度以上に各学年で、高い評価(「学校生活充実」や「良い友人関係」など)を得た。 高校生の評価は、高3で「学習指導」や「進路指導」で高い評価を得た。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者のロイヤルティ指数(「本校を勧める」割合)は、高3が目標水準を超えるなどの良い評価結果を得たが、学年による傾向差が生じている。 ⇒今回得られたデータに基づき、次年度においては、全学年にわたってより一層の注力を行っていく必要がある。 特に「生活指導」「進路指導」「アウトプット教育」については昨年度に続き、向上した結果が得られた。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学習指導」「生活指導」は昨年度と同程度の自己評価であったが、「国際教育充実」に若干の低下が見られた。 ⇒国際教育は、本校の取り組みの目玉の一つでもあるため、その要因を検証し、さらに充実させていく必要がある。 <p>【分析】</p> <p>保護者評価において、「担任指導」の評価が全項目中で最高であったことや、「生活指導」「進路指導」「アウトプット教育」の評価が高い水準で維持できていることから、本校の指導力が保護者の期待に応えられていることをうかがい知ることが出来る。しかし、これはアンケート集計の全体的な結果である。全ての保護者と生徒の期待に応えられるよう、さらなる向上を目指したい。</p> <p>生徒評価においても、「担任指導」の評価が全項目中で2位(1位は「良い友人関係」)であったことは、保護者の結果と整合している。加えて生徒への親身な指導の評価も昨年から高い水準を維持できていることから、生徒満足度が高いことが予想される。項目の特性上、どうしても高2、高1では低くなりがちである「進路指導」であるが、学院の教育の柱でもあるキャリア教育の観点から、さらに注力を進めたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営目標には異論はなく、しっかりとした教育を実践してほしい。 生徒募集については、学校全体で取り組むことが大切である。生徒・保護者が教育内容についてよくわかるような企画を考えてほしい。 進路実績についてはよくなってきており、よいことである。さらに実績を向上させることと、生徒の第一志望の大学に合格できる割合をさらに増やすことに注力してもらいたい。 学習習慣を身につけることは非常に大切なので、家庭と連携してご指導をお願いしたい。生徒たちの学力レベルは、以前より上がってきているのではないかな。 新キャンパスにおける新教育に大いに期待している。生徒たちにしっかりと力がつくように指導をお願いしたい。 校地移転後も、隣に大学があるので、今まで以上に総合学園として大学と連携した教育に取り組んでもらいたい。 学習や進路指導については、特に学校と家庭が情報を共有することが大切なので、情報発信については一層の充実をお願いしたい。 挨拶をしっかりできる生徒と、そうでない生徒の差がある。家庭と学校が協力して、さらに挨拶がしっかりできる生徒に育ててほしい。

4. 本年度の取組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学院教育理念に基づく教育推進	<p>◇教育理念を理解し、学校の教育目標を達成する組織を形成する。</p> <p>◇「志の教育」「心の教育」という本校独自の教育を推進する。</p> <p>◇学院内でのさらなる連携に取り組む。</p> <p>◇教育理念を共有し、これを伝えることで、志願者を安定的に確保する。</p>	<p>(1) 学校評価に際し、教育理念を踏まえた部門目標を設定・完遂することで、学校の教育目標を達成する。</p> <p>(2) 「志の教育」「心の教育」を各学年ともHRや総合的な学習の時間で実践し充実を図る。</p> <p>(3) 高大連携を中心に、各併設校園と、教育理念の共有による教育連携を行う。</p> <p>(4) 教育理念を全教職員が共有し、塾訪問や中学訪問、各種説明会などで力強く訴えかけることで、志願者の更なる確保を目指す。</p>	<p>(1) 学校評価における、学年、教科部門による目標</p> <p>(2) 具体的な取組みの内容、生徒によるプレゼン等取組み自体の共有</p> <p>(3) 高大連携の取組み 大手前中・高、小学校、こども園との取組み</p> <p>(4) 志願者数、入学者数動向</p>	<p>(1) 上位目標と各部門の目標のリンクのさせ方については、綿密なものとする事ができた。各部門が自立し、目標達成のための取組みを主体的に進める事ができた。学習関連の項目における、更なる満足度向上が課題である。</p> <p>(2) 各学年において、計画的に取り組む事ができている。生徒によるプレゼンの機会も設定し、全体で取組みの共有も進んでいる。</p> <p>(4) 表現コミュニケーションコース、スポーツコースと大学との連携に注力できた。また、AP科目の受講に関し、高校生の学力向上について協働の取組みについて協議を行った。他校園とは、合同授業、クラブ交流などを行った。</p> <p>(4) 中学においては、3年連続で志願者数が増えた。高校では、安定した生徒募集活動ができている。理念を体現する人物の育成を軸とし、新教育を展開していくことを内外に発信していくことの意識を今後も高めていくことが課題である。</p>
2 「学習力」の強化	<p>◇教員組織全体の教育力の向上を促進する。</p> <p>◇本校独自の学習システムを整備、拡充させる。</p> <p>◇生徒の学力向上に徹底的にこだわり、進学実績の向上につなげる。</p>	<p>(1) 教員の授業力や進学指導力向上を達成し、これを総合的な学校教育力に結びつける。</p> <p>(2) 教員の授業力のさらなる向上を目指すため、授業アンケートを実施し、その振り返りシートの作成を行う。また、授業を相互に見学する体制を構築する。</p> <p>(3) 学習推進・進路指導部が基軸となって各学年で学習指導・進路指導の取組みを進める。</p> <p>(4) 個々の生徒について、模試の結果についての詳細な分析を行い、教員間での議論を経て、教育相談や進路指導を入念に行う。</p>	<p>(1) 公開授業・研究授業 大学入試問題の研究 外部セミナーへの参加</p> <p>(2) 授業アンケートの結果 授業相互見学週間の設定</p> <p>(3) 進学実績の向上 進路関係のイベント・保護者向けのイベントの開催</p> <p>(4) 模試分析会の開催 教員全体での出願指導会議の開催と情報共有</p>	<p>(1) 教科主任や担当者が分かりやすい授業を意識し、生徒の授業アンケートまた見学などの結果を学年主任と情報共有して授業改善に努める事ができた。</p> <p>(2) 授業アンケートを全教科で実施し、非常勤講師も含めてその振り返りを行った。さらには授業アンケート結果を教科で議論し、課題を確認した。両中高教科研究会で公開授業を行ない、AL型授業などの「新たな学び」の取組みが推進され、その成果と期待がアンケートの数値にも表れている。</p> <p>(3) 徹底した数値目標の設定と、結果データによる分析を行うことで、生徒個々の学習に有効な指導を行う事ができた。高3は人数の少ない学年であったが、大学合格実績をその率で見ると、国公立大学等で、かなり健闘した。保護者向けの進路関連イベントを頻繁に開催する事ができている。低学年での実施と更なる参加者数増が課題である。</p> <p>(4) 模試の結果を受けて、全教員で個々の生徒のケース報告会を実施し、進路指導の方法を共有するとともに、適切かつきめ細かい進路指導ができた。更なる学習意欲向上の取組みが課題である。</p>

<p style="text-align: center;">3 特色ある教育の推進と充実</p>	<p>◇新しい学びのあり方についての研究と構築</p> <p>◇スポーツコース、表現コミュニケーションコースの充実</p> <p>◇国際教育の充実</p> <p>◇新キャンパスでの教育実践のための準備</p>	<p>(1) 学校の将来構想の一環として、「未来教育プロジェクト」において「新たな学び」について議論し、その大枠を構築する。</p> <p>(2) スポーツコースでは、総合学習の指導内容を充実させ、コースのミッションを再確認する。 表現コミュニケーションコースでは、日々の授業や公演を通じて、活動の充実と成果の可視化を図る。</p> <p>(3) 英語の4技能について、中学・高校ともにさらに注力すると同時に、ユネスコスクールとしての活動をさらに推進させる。</p> <p>(4) 来るべき新キャンパスでの教育実践を考慮し、「新たな学び」につながる教育を、学習推進・進路指導部、教育推進部の牽引により、各教科あるいは総合的な学習の時間を用いて実施する。</p>	<p>(1) 「未来教育プロジェクト」会議の実施</p> <p>(2) 各コースの満足度 総合学習の充実 公演の実施</p> <p>(3) 模試成績 英検 パワーイングリッシュの実践 ユネスコ活動の活性化</p> <p>(4) 「新たな学び」の実践 教育の構想</p>	<p>(1) 校地移転・新校舎建設の流れの中で、新教育の内容を検討し、それを具体的に進める計画と実践を進めることができた。その内容について生徒・保護者に深く理解してもらうことが課題である。</p> <p>(2) 表現コミュニケーションコースとスポーツコースの追手門学院大学との連携についての協議を進め、具体的な取り組み内容についても検討を進めた。表現コミュニケーションコースの2期生が卒業し、多様な進路実績を実現できたので、さらに内外へのアピールをすることが課題である。卒業公演等の取り組みとその広報活動にも力を入れて、社会的評価をさらに高めていく必要がある。</p> <p>(3) SSコースでのオールイングリッシュ、Sコースでのパワーイングリッシュや高校での英語4技能の学習が進展している。 英検の上位級での合格者割合も高い率を維持している。 またユネスコ国際部が活動の場を広げている。</p> <p>(4) 「新たな学び」につながる様々な取り組みを通して、これからの授業方法や授業内容のあり方について研究・議論を深めることができた。これまでに一定の成果を得た取り組みもあるが、教員全員が質の高い新たな教育を提供するため、次年度はさらに実践と研究が必要と思われる。</p>
---	--	--	--	--